

相模原市立公文書館第21回企画展

流送と育林

津久井の近代林業史



開催期間

令和4年7月22日(金)

～9月30日(金)

時間 午前8時45分～午後5時

場所 相模原市立公文書館

休館日:土・日、祝日

なお、公文書館トーク・トーク(展示解説)の開催日は開館します。

公文書館トーク・トーク(展示解説)開催日時:

7月23日(土)、8月27日(土)、9月24日(土) いずれも午後2時～午後3時

問い合わせ 相模原市立公文書館 電話042(783)8053



展示概要

明治期、鳥屋山ではケヤキの伐採が行われ、山林資源の有用性が村人に意識されます。大正期、青根山の、特に神ノ川流域での木材を伐採し、木材を川に流して運ぶ「流送」事業が盛んになります。

関東大震災から戦時の乱伐のため山林が荒れたことにより育林が意識され、やがて水源林保護事業につながっていきます。

こうしたそれぞれの時期の特徴的な歴史的公文書等によりその流れを明らかにします。



二番虹梁になりそこねたケヤキ 地名伝承から事実へ

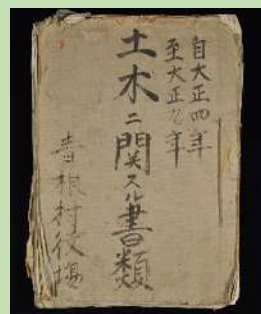
鳥屋山に大虹梁（おおごりょう）という地名が残っており、京都東本願寺の二番虹梁（化粧の梁材）を採った場所だと伝えられてきました。平成18年、東本願寺から津久井郡鳥屋村の木材関係の資料について問合せがあり、明治13年から16年にかけての実際の事件であることがわかります。結論としては「控え木」とされ、御影堂等に使われた形跡はありませんでした。

ケヤキ山事件

鳥屋山のケヤキは、山林の販売代金をめぐり、村人全員に分配しろという主張と村の基本財産とする主張とで村を二分する争いになり、ケヤキ山事件と呼ばれています。

大倉組の伐採・流送事業

神ノ川の共有林は、大正に入り大倉組が権利を手に入れ、長者舎に伐木所を設けて伐採事業に入ります。



地元企業の流送事業

太井村荒川地区の住民や大倉組の流送事業に参入した人などを中心に地元でも流送事業が活発化します。

昭和の植林事業

関東大震災を経て、戦後になると企業庁が水源林として植林事業に参入し治山治水事業も進んでいきます。

講演会を開催します！

『関東大震災から見た森林～丹沢山地の地震と森林史から浮かびあがるもの～』

日時 令和4年9月3日（土） 午後2時～午後4時（開場 午後1時30分）

会場 相模原市立公文書館

講師 神奈川県県央地域県政総合センター森林部 部長 内山 豊 氏

講演会の詳細は、改めて市ホームページや広報さがみはら、チラシでお知らせします。

相模原市立公文書館

所在地 〒252-5192 相模原市緑区久保沢1-3-1 城山総合事務所 第2別館3階

ホームページ <https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/shisetsu/shikanren/etc/1002758.html>

